

平成 28 年 1 月 29～31 日付

ホツマツタエ講座  
占い結果 アヤマの解説

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

まえがき

アマテル神が選定したフトマニの128番中1番の「アヤマ」の意味について、ホツマツタエ全文を通じて 下記のように解説文を作成しましたので ご覧下さい。

本文 ㊦開糸 (ヲシテ)

㊦㊦㊦

㊦田㊦㊦田 ㊦㊦㊦㊦

㊦風㊦ ㊦夕田㊦㊦ ㊦㊦

開田㊦㊦田 ㊦㊦㊦㊦

㊦㊦㊦

解説

左列の「アヤマ」を現在文に書き直すと次のようになります。

天山

天の山の 中ウツ

ロキか アワの砂 九星

の胞衣の むねそ編

みける

本文 (カナ文字)

アヤマ

アノヤマノ ナカウツ

ロキカ アワノスナ コホ

シノエナノ ムネソア

ミケル

そして、「中」「ウツロキ」「アワの砂」より連想されるホツマの文章は、24アヤ(綾)41～42になるようです。だが、この文章の元は、アマテル神の孫のニニキネの御世であり、年代は29鈴501枝38穂の如月の過ぎであり、フトマニが作られた以降の記述のようです。

24アヤ(綾)41～42

中の地もがな

ウツロキが アワ海浚え

三尾の地と 人担い来て

朝の間に 中峰なせば

神の名も ㊦㊦朝間峰

そこで、この「アヤマ」を紐解く鍵を、「中」「ウツロキ」「アワ」以外の①「天の山」、②「アワの砂」、③「九星の胞衣」、④「むね」、⑤「編みける」から調べて見たいと思います。

#### 調査結果

- ① 「アヤマ」は、ホツマ、ミカサフミには記述されない言葉のようです。
- ② 「アワの砂」をホツマ語で漢字に置き変えますと、「ア」は天、「ワ」は地になり「天地の砂」になります。
- ③ 「九星の胞衣」の「九星」は、天常立神の九星を云い、更に、九星は、天上に居ます御中主神（1神）と、その外周に居ます元々神（8神）を意味し、「胞衣」の意味は、胎児を包んでいた膜や胎盤などから、胎星を包んでいた宇宙となり、「九星の胞衣」は、御中主神、元々神（8神）を包む宇宙を意味するようです。
- ④ 「むね」を現在文にしますと「宗」になり、「おおもと」を意味します。
- ⑤ 「編みける」の「編む」は、何も無い所から「あるもの」を用いて、からませて作るようになるようです。

上のように調べて来ますと、「九星（御中主神他）の胞衣」「宗（おおもと）」が大きく意味を持って来るようであり、御中主神の云々と来ますと、年代的にはアマテル神より相当古代のようで

す。すると、「天の山」「天地の砂」の意味も変わって来て、この「アヤマ」の出来事は、クニタマ（地球）の創世記の出来事に由来する壮大な物語に思えて来ます。

### アヤマの解釈

壮大な天（宇宙）のことです。クニタマ（地球）では、天中主神の御世の頃になります。ウツホ（地球の大気圏）の山中に住んでいたウツロキか（は）、フトマニ図の中心に鎮座する天中主神より勅を受けました。勅の内容は、

「ウツロキの皆で、天（宇宙）に点在する地の砂（宇宙の塵）を浚って、九星（注記）の胞衣（宇宙での九星神が座る定位置）の宗（おおもと）ぞとなる神座を編みける（編み上げてくれ）」とのことでありました。（吉田説）

#### （注記）九星

御中主神（1神）と元々神（8神）のこと。また、元々神とは、御中主神の傍の外周に居ますトホカミエヒタメの八神になります。

（おわり）